

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 213号

平成21年10月1日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で...

久慈農業改良普及センター 公式

検索

県農村青年クラブ大会 in 久慈 盛大に開催！

8月29～30日の2日間にわたり、久慈地方を会場に総勢110名の農業青年らが参加のもと、第56回岩手県農村青年クラブ大会が盛大に開催されました。本大会は県内の農業青年クラブ員相互の連携を強化するとともに、各地域の農業・文化の理解を深め、新たな出会いや情報の交換により自らの農業経営を見つめ直し、地域農業・地域社会を担っていく意欲を醸成することをねらいとし、岩手県農村青年クラブ連絡協議会主催により毎年夏に開催されているものです。

大会1日目は見事なまでの快晴に恵まれた種市海浜公園を会場にビーチバレー競技が行われ、白熱した試合が展開されました。また、情報交換会では、他地域のクラブ員らと交流を深めるとともに、今後の農業などについて語り合いました。

大会2日目は久慈地方4Hクラブ員の柿木敏由貴さんが勢子を務める平庭闘牛大会を観戦し、迫力ある闘牛と巧みな綱捌きに魅了されました。

今年の大会は、地元の久慈地方連が積極的に運営に参加したこともあり、久慈ならではの大会となりました。参加者からは、「参加して良かった」、「いろんな人と話が出来、刺激を受けた」などの声が聞かれ、非常に有意義なものとなりました。

普及センターでは、今後も将来の農業を担う青年の活動・ネットワークがさらに大きく輪を広げ、展開されるよう支援していきます。



県内各地から集合した
農業青年クラブ員（大会1日目）



平庭闘牛大会観戦
（大会2日目）

初めての水稻直播栽培に手応え

～水稻の省力・低コスト栽培実証の中間報告会を開催しました～

久慈地域で今年初めて取り組んでいる水稻湛水直播栽培と水稻ロングマット水耕苗移植栽培の実証圃では、周辺の移植栽培圃場より5～10日遅れて8月21～26日に出穂期を迎えました。

直播栽培では十分な出芽を確認したものの、鳥の食害が甚大で実証を中止した圃場も一部あり、その圃場は急遽ロングマット水耕苗移植等に切り替えて実証を継続してきました。発酵粗飼料用及び主食用栽培とともに、周辺圃場より登熟は遅れているものの順調に生育しています。8月26日には中間報告会を開催し、管内の担い手農家等が50名参加しました。実証圃を巡回しながら生育状況や栽培技術について研修し、その後、会場を移し、普及センターから低コスト栽培技術の特徴や経営メリットについて、久慈市からは耕畜連携システムの実施について説明しました。続く意見交換では、担当農家から実証技術への手応えが述べられ、参加者からも技術に係る質問や実績検討会の開催要望が出される等、省力低コスト栽培技術への期待感がうかがわれる報告会でした。



実証圃巡回の様子
（主食用生産を目指す「かけはし」による直播栽培実証）

「簡易草地更新研修会を開催！」

～ “短時間で経費も安い” 参加者、高い関心！！～

管内の草地更新の適期である8月下旬に合わせ、久慈農業改良普及センターの主催で「簡易草地更新研修会」を畜産農家等約30名の参加により開催しました。

会場となった洋野町大野で和牛繁殖を営む権谷さんの放牧地には、電気牧柵が設置されて和牛が放牧されていますが、研修会当日はポリワイヤーで牧区を区切って実演されました。実際の場面でも広い草地のうち生育が劣る場所を区切って作業することで既存の放牧への影響を少なくした草地更新が可能となります。

今回実演した簡易草地更新機は、土に条溝を付けながら播種する方式ですが、従来の類似機に比べて発芽率を高くする工夫がなされていること、障害物があっても回避できることが特徴であり、草地30aの更新を約1時間で終わることができました。参加者は、「これまでの完全更新法に比べ、時間も経費もかからず、非常にいい方法だなぁ」と関心していました。機械は270万円前後と高価なものなので、当地域で普及させるためには共同利用や、同様の機械を所有する公社などに作業委託する方法が考えられます。

自給飼料が見直されている時代、前植生を活かしながら計画的に草地更新を行い、草地の生産性向上が図られていくことが期待されます。



簡易草地更新機の稼働の様子(条溝が付けられ、牧草種子が播種されています)



講師(株)サージミヤキ所長(左端)の説明を熱心に聞きました

環境保全型農業について考える

～ 第2回久慈地方環境に優しい農業の日を開催しました ～

9月8日、野田村生涯学習センターにおいて「第2回久慈地方環境にやさしい農業の日」を開催しました(主催:久慈農業改良普及センター)。この研修会は“環境”をキーワードに環境保全型農業の推進や安全・安心産地づくりに活かしてもらうため開催したもので、今回は県農業研究センターによる「現地ふれあい農研センター」と共催しました。

始めに当センターから、水稻の生育状況と刈取適期、斑点米カメムシの草刈り徹底による耕種的防除対策、農薬の適正使用について説明しました。続いて研究センターから環境保全型農業の現状と最新の技術紹介、新しい土壌分析システムの実演が行われました。

研修した生産者からは、有機物の利用や水稻の施肥設計方法、独自に試している農薬使用削減技術について等多くの質問がありました。また、新しい土壌分析システムに対しても「短時間で簡便にでき従来の方法より良い」との感想があり、環境保全型農業について更に理解が深る一日になったようです。



水稻の指導会の様子



新しい土壌診断の説明に耳を傾ける生産者

食の匠認定書交付式

優れた郷土料理技術の伝承者を岩手県知事が認定する「食の匠」に、普代村の日蔭茂井ソノさんが「すき昆布の煮物」で今年度認定され、久慈管内では、食の匠が19人になりました。

この料理は、すき昆布の色が青くきれいで、昔ながらの「さばの焼き干」を出しに使ったなつかしい味の煮物です。

認定証書交付式は、9月15日盛岡市内で行われ、瀬川農林水産部長から今年度認定の19人に認定証書と称号札が手渡され、認定者は決意を新たにしていました。

その後、選考委員座長の岩手大学の菅原教授から、「岩手の安全な農林水産物を安心な食べ物として県内外に発信すること」「今後もさらに学び挑戦してレベルアップを図ること」「技や食材を次の世代に伝えること」を広めていただきたいと激励がありました。

さらに情報交換会で、先輩食の匠から伝承活動の仕方のアドバイスや地方協議会での研修活動の紹介があり、県内197人の食の匠が共に食を通して出会いをつくりながら地域も活性化していくことを確認していました。



認定証書が授与されました



すき昆布の煮物

秋の農作業安全月間スタート(9月15日～11月15日)

平成21年度農作業安全運動スローガン

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

秋の農繁期は、農業機械による作業の頻度が高まるとともに、夕暮れが早い気持の焦りから、農作業事故の危険性が高くなる時期です(図1)。

特に、夕方以降の事故が多いため(図2)、ゆとりのある計画的な作業を心がけ、夕暮れ時に道路を走行するときは、自動車から見えやすいよう、身につけるものや農業機械に夜光反射材を取り付けましょう。

また、稲刈り作業中にコンバインにワラがつまった時には、必ずエンジンを停止してから取り除くなど、機械に巻き込まれないように注意しましょう。

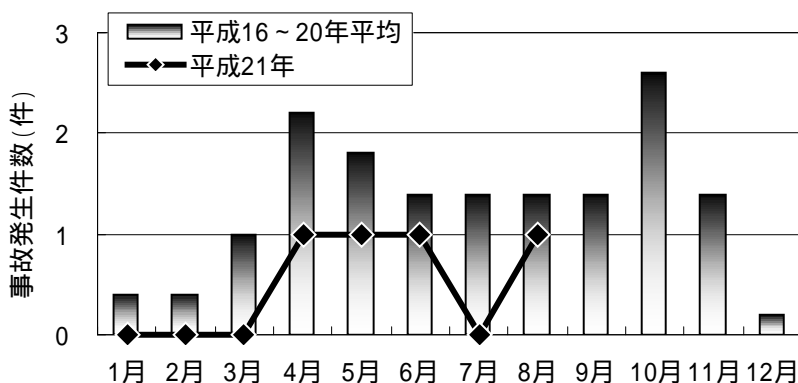


図1 月別死亡事故発生件数

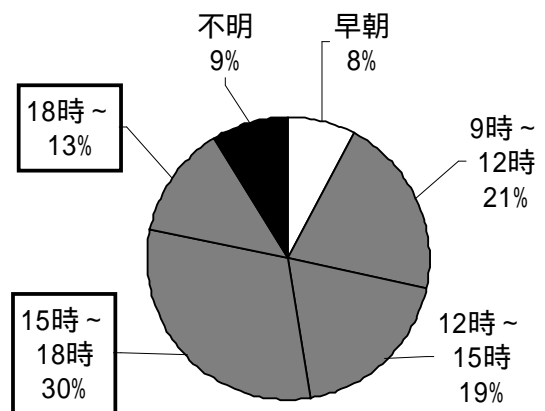


図2 死亡事故発生時間帯別割合

技術情報

今年も土壌診断の季節です！

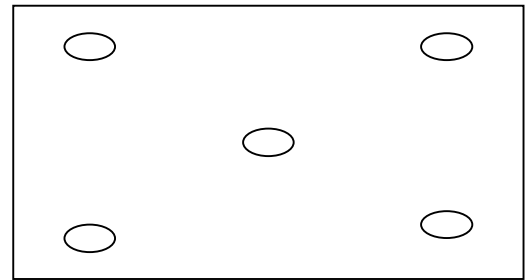
実りの秋を迎え、土壌診断を行う時期が近づいてきました。

土壌診断は新規の圃場や新たな作目の植付け計画がある場合だけではなく、作付年数が長い圃場(ハウス土壌、普通畑、水田)も土壌中の養分量を把握して、施肥設計に活かしましょう。

なお、同じような栽培管理を行っている圃場から1圃場を代表地点として、定期的に診断するようにしましょう。

< 診断を受ける場合の注意点 >

- ・ 提出場所は農協の各地区担当課が窓口で、提出期限は 11 月下旬です。
- ・ 土壌を採取する際は、表土(1~2cm)を軽く取り除いて、その下の作土を圃場の 5ヶ所から集め、良く混合してください。土を取る場所は畑の四隅と真ん中です。
- ・ 採取した土壌は、乾燥、破碎、フルイ通しを行い、透明のビニール袋に入れて提出してください。量は 100g 程度を目安にします。
- ・ 提出の際は、袋の下の方に以下の項目を記入願います(上の方に書いてあると結び目と重なって読めないことがあります。)
- 住所(大字まで)、氏名、圃場番号、作付け予定作目、施肥前・作付け中の別、ハウスの場合は冬にビニールを取り除くか張ったままか。
- ・ 診断結果は来年の 3 月に通知しますので、予めご了承願います。



土壌を採取するのは圃場の 5箇所から！良く混合して「ふるい」にかけてください！

りんご

中生種(ジョナゴールドなど)、晩生種(ふじなど)の着色管理について

中生種は収穫予定の 20~30 日前ころ(9月下旬から 10月上旬)、晩生種は着色期間が長いいため、収穫予定の 30~40 日前ころから 10月上旬、10月下旬の 2 回に分けて葉つみ作業を実施しましょう。葉つみ作業については糖度向上、来年の花芽充実のために過度な摘み取りは避け、果実の周りの葉を中心に摘み取るようにしましょう。

中生種、晩生種の収穫について

収穫は、下記の表を目安に実施しましょう。

収穫した果実は、できるだけ早く冷暗所に移動しましょう。

。品種	糖度	硬度	でんぷん指数	蜜入り指数
ジョナゴールド	13%以上	13 ポンド以上	2 ~ 3	-
シナノゴールド	15%以上	15 ポンド程度	1 以下	-
王 林	14%以上	14 ポンド以上	1 . 5	-
ふ じ	14%以上	14 ポンド以上	1 ~ 2	3

「ふじ」の「蜜入り指数」の目安は年内販売の場合です。

畜産(飼料作物)

二次発酵しないサイロを作りましょう

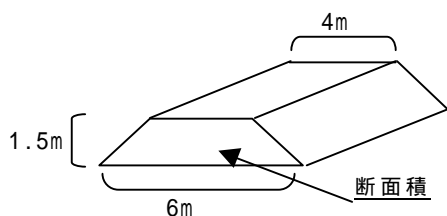
「夏に開封したコーンサイレージが二次発酵して、種が止まらない!!」という経験をされた方もいると思います。二次発酵の最大の原因は、サイロ開封時における空気との接触であり、好気条件で活性化した酵母がサイレージの乳酸を分解することで、安定していたサイレージの pH が上昇し、変敗・カビの発生につながります。せっかく生産したサイレージを二次発酵により無駄にしないためには、毎日のサイレージ取り出し量とそれに見合ったサイロを作成することが重要となります。

サイレージの取り出し量とサイロの設計サイズ

サイレージの取り出し厚さは、バンカーやスタックなどの横型サイロであれば原則 20cm 以上とし、冬よりも夏に厚く取り出すようにします。また、サイロのサイズも図のとおり断面積と詰め込み密度を考慮のうえ、厚さ 20cm での取り出し量が必要取り出し量より少なくなるようなサイロを作成するようにしましょう。

【図 サイロのサイズ設計例】

(例：スタックサイロの場合)



$$\text{断面積} \left[\frac{(\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ}}{2} \right]$$

例) 経営規模(給与頭数: 50 頭、給与量: 現物 20kg/日)の場合

- ・ 1 日あたりの必要取り出し量: 現物 1,000kg (50 頭 × 20kg/日)
- ・ 現物密度: 600kg/m³ (スタックサイロの場合)
- ・ 最低取り出し厚さ(20cm)による取り出し量
 = 断面積 × 現物密度 × 最低取り出し厚さ
 = 7.5(m²) × 600(kg/m³) × 0.2(m) = 900kg